

学校法人北海道科学大学  
新型コロナウイルス感染症  
対策基金事業報告

「新型コロナウイルス感染症対策基金」へのご協力をいただいた皆さまに、心から感謝申し上げます。

来る2024年の創立100周年までの「北海道No.1の実学系総合大学」実現を目指して、改革が加速している最中、新型コロナウイルスの猛威により、通常の大学・高校運営がままならない状況が続いています。このコロナ禍の中で、経済的な困窮に陥る学生・生徒も現れました。本法人では、他に先駆けて学生・生徒への経済的な支援のための「新型コロナウイルス感染症対策基金」を創設し、関係各位にご協力をお願いをしたところ、設置校の各同窓会、北海道科学大学親交会、地域の個人・団体の皆さまからこころよく応じていただきました。同時に、学生・生徒の学びの継続を守ろうと多くの教職員が立ち上がり、この度の寄付活動にもご協力をいただいたことは力強い限りです。おかげさまで、基金をもとに「生活支援金」「遠隔授業通信環境整備支援金」「学習支援金」として約4,500名の学生・生徒を支援することが出来ました。また、教職員の皆さまには遠隔授業、学生・生徒への平時にはない対応や学内の感染予防対策等で大変なご苦勞をおかけしております。皆さまのお力添えとご努力で教育活動が継続できていることに、改めて、心より感謝申し上げます。

本法人の歴史を振り返ってみると、北海道の自動車保有台数が僅か136台であった1924(大正13年)に伏木田隆作が私財を投じて自動車運転技能教授所を開設したことに始まります。寄付文化の草創期ともいえる当時に思いを馳せると、創立から昭和初期に本法人設立に私財を投じた多くの先人たちの思いと、このたびご協力をいただいた皆さまの思いは相通ずるものと感じています。その思いを途絶えることなく継承し、本法人の設置校で学ぶ学生・生徒が安心して集えるよう学内の正常化に努めて参ります。

そして、学生・生徒の成長と共に、来る2024年の創立100周年を迎えたいと思います。

今後とも、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

2020年9月15日

理事長 苫米地 司

## 寄付の実績

2020年5月20日より募集を開始しました新型コロナウイルス感染症対策基金に対して、多大なるご協力をいただきました。改めてお礼申し上げます。

### 新型コロナウイルス感染症対策基金寄付金受入・給付報告

#### ○受入・給付報告

寄付受入	件数	359 件	給付	件数	4,537 件
	総額	25,461 千円		総額	124,330 千円

#### ○新型コロナウイルス感染症対策基金内訳



#### ○支援金別給付件数・金額



### 各設置校同窓会からの寄付金受入・給付報告

雪嶺会から1,000万円、北薬会から360万円、丁酉会から50万円、工尚会から30万円、4同窓会合計1,440万円のご寄付をいただき、生活支援金の追加支援として1,197万円(3万円×399名)を給付しました。残額243万円は+Professional奨学基金【就学支援金】に繰り入れます。

### 北海道科学大学親交会(父母会)からの寄付金・現物寄付受入報告

北海道科学大学親交会(父母会)から、250万円のご寄付及び500万円相当の現物寄付をいただきました。現金寄付については、新型コロナウイルス感染症対策に使用いたします。現物寄付は、自動消毒液スタンド及び講義室・学生食堂並びに休憩スペースに設置するアクリルパーテーション等をご提供いただきました。

## 各支援金について

### 遠隔授業通信環境整備支援金

各種情報機器の購入や通信回線の開通工事等の費用の一部に充当し、遠隔授業受講のための環境整備を支援することを目的として、大学・短大部の3,150名の学生に対して、一人あたり3万円を給付しました。

### 生活支援金

新型コロナウイルス感染症の影響により、生活環境が著しく低下した学生への支援措置として、大学・短大部の399名の学生に対して、一人あたり5万円を給付しました。

### 学習支援金

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校措置に伴う、オンライン授業やICTを活用した各種の学びに対応するための通信環境及び家庭における学習継続に必要な対応支援を目的として、高校の全生徒988名に対して、一人あたり1万円を給付しました。

## 受給学生の声

この度は、遠隔授業通信環境支援金・生活支援金として我々学生にたくさんの支援をしていただき、誠にありがとうございます。私はこの春新しい生活が始まることに大きな期待をしていました。しかし、新型コロナの影響により、その期待も不安に変わる一方でした。特に、生活の管理は今までに経験がなく戸惑うこともありましたが、支援金のおかげで生活の目処が立ち勉強に専念することができました。新型コロナの影響は続くと思いますが、この支援の恩を忘れずこれからも勉強に励みます。本当にありがとうございました。  
保健医療学部 臨床工学科 1年

この度は、生活支援金の給付を行う上で様々な方にご寄付賜りましたこと、心より御礼申し上げます。私はイベントの運営を行うアルバイトを行っていました。しかし、イベントの中止や延期により収入が途絶えたことから、金銭面の不安を感じ、また大学院の学業への不安といったことが重なり、切羽詰まった日常を過ごしていました。その時、生活支援金の話を学生課の方にお聞きし、給付を受けたことで安心して学業に専念することができました。最後になりますが、大学にご寄付いただき、本当にありがとうございました。  
工学研究科 修士課程 情報工学専攻 1年



***+Professional***